

被災地方言会話集

— 宮城県牡鹿郡女川町 —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点	宮城県牡鹿郡女川町		
収録日時	2012（平成24）年7月13日		
収録場所	宮城県牡鹿郡女川町女川浜大原 ふれあいオレンジハウス		
話題	【場面設定会話】 全11場面		
話者			
A	女	1932（昭和7）年	（収録時80歳） [Bの知人]
B	男	1946（昭和21）年	（収録時66歳） [Aの知人]
話者出身地			
A	女川町尾浦（オウラ）		
B	女川町女川浜（オナガワハマ）		

【場面設定会話】

話し手

A 女 1932 (昭和 7) 年 (収録時 80 歳)
B 男 1946 (昭和 21) 年 (収録時 66 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨガス、 Bサン。
おはようございます、Bさん。

002B : ア、ア。ア、ドーモ、イツモ オシェワサマデス。
あ、あ。あ、どうも、いつも お世話さまです。

003A : アー、ンデ、 チーツケデケラインネ。
ああ、それじゃあ、気をつけて下さいね。

004B : アー、ドーモドーモ、イツモネヤ、アリガドゴザイマス。
あー、どうもどうも、いつもね、 ありがとうございます。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [1]

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [1]

〈ねぎらい〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : アラー、ズイブ ツカレダイッチャー。ココデ、アンダ、(B うん)
あー、ずいぶん 疲れたよね。 ここで、あなた、(B うん)

スコス ヤスンダラッシャ。
少し 休んだら[どうですか]?

002B : ンダガラニャー。ジュットンシャヌー、ホレーシャサヤ、
そうなんだよな。10 トン車に、 保冷車にさ、

ニジュットンモ ツマシェライデヤ、ウンテンシュド フタリデヤッテ、
20 トン[分]も 積みせられてさ、 運転手と 二人でやって、

コスガラ ケナガラヤ、イテグナッテ シャマスモンダデバ。
腰から 腕からさ、 痛くなって しかたがないもんだよ。

マイナスマイナスズヤー、イズヌズデヤー、ニダイワ
毎日毎日さ、 1日でさ、 [トラック]二台[分]は

ツマネゲネーモンニャー。
積まなくてはいけないもんな。

003A : ア、ズイブ シニデスデ ゴザンシタネア。
あ、ずいぶん ひどい日で ございましたね。

004B : ンダネア。(A ン) ンダガラ コスー イデクテヤ、
そうだねえ。(A うん) だから 腰[が] 痛くてさ、

シャマズモンダデバ。
しかたがないもんだよ。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : スコス ヤスンデ オジャッコ ノンデイカ° イン。
すこし 休んで お茶[を] 飲んでいきなさい。

002B : アー、ドーモドーモ、イツモ オセワサマデス。
あー、どうもどうも、いつも お世話さまです。

003A : ホラ、コイズ オメガラ クッタラ イガイッチャー。(B イヤー)
ほら、これ[は] うまいから 食べたら いいじゃない。(B いやあ)

トッテモ ンメド。(B ナシーノー) アンツッコ イーガラ。
とっても うまいぞ。(B なんの) 味[が] いいから。

004B : ハー、オイー クーノサネアー、スギークライ アッテ ワガンネンデガストー。
はあ、俺[は] 食べるのになあ、好き嫌い[が] あって だめなんですよ。

005A : ダメデガスト、ホイデ。
だめですよ、それでは。

006B : ウン。
うん。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : Bサン イダノスカ。 オ モー オシルニ (B ン) ナッタデバ。
Bさん いるんですか。× もう お昼に (B うん) なったよ。

ナニステヤノシヤ。

何してたのさ。

002B : ン ン ナヌモ ステネー、ヨゴナッテヤ。ナンヌモ。
うん うん 何にも してない、横になってた。何も。

イク° ドゴモネース、ジェニモネース。ダガラ ネデヤホーイデバ。
行くところもないし、金もないし。 だから 寝てるほう[が]いいってば。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : Bサン、スコップ、アンタ、カシテケネーベガ。
Bさん、スコップ、あなた、貸してくれないだろうか。

002B : スコッパー。
スコップ?

003A : ウン。
うん。

004B : ン、マー、ヒトズッカ ネケトモ イヨ、ツカッテ。(A ウン)
ん、まあ、一つしか ないけど いいよ、使って。(A うん)

ナニモ カマネーガラヤ、(A ア) ホイズ。

何[も] 構わないから、(A ああ) これ。

005A : ア、ホント一。
あ、本当。

女川町 場面設定会話

006B : ウン、ウン。
うん、うん。

007A : ンデ、 カリデインカラ。
それじゃあ、借りていくから。

008B : ウン。
うん。

009A : ウン。
うん。

010B : カスンダガラネ。
貸すんだからね。

011A : ンーン、イーヨ、モラネガラ。
うんうん、いいよ、もらわないから。

012B : ケンデネーガラネ。
やるんじゃないからね。

013A : ハイハイ、ワガリシタ。
はいはい、わかりました。

014B : ウン。アド、(A ウン) ツカッタラ ケシテケラインヨ。
うん。あと、(A うん) 使ったら 返して下さいよ。

015A : アー カエスカラ。
ああ 返すから。

016B : ハイ。ンダラ イーガラ、モッテッテ イーガラ。
うん。それなら いいから、持って行って いいから。

017A : アー ハー、(B ハイ) カリデイギマス。
ああ はい、(B はい) 借りていきます。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : アー、Bサン、オガケ。サンデ スコップネー、(B シー)

ああ、Bさん、おかげさまで スコップね、(B うん)

ヤグタッタガラッシャ、(A アーア) ドーモ アリガドーゴザイマシタ。

役[に]立ったからさ、(A ああ) どうも ありがとうございました。

002B : アー、ハイハイハイ。

あー、はいはいはい。

003A : シー、マダ ツク [2] ドギ カシテケラインネ。

うん、また 使う 時[に] 貸してくださいね。

004B : シー シー ウン。

うん うん うん。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : アー、Bサン。ナー、サッキナ カリダ スコップヤー、

あー、Bさん。なー、さっき 借りた スコップさ、

フチャイデスマッターダー。ナンジョスッペー。

壊してしまったんだ。 どうしよう。

002B : アー、イー イー、インダー、ホイズ。アノ、コノ スコップヤー、

ああ、 いい いい、いいんだ、それ。 あの、この スコップさ、

スッコス サビデデ、アノー キノドゴ、 クサッテヤガラヤ。

少し 錆びてて、あの 木のところ[が]、腐ってたからさ。

003A : アー ネットニ。

ああ 本当に。

女川町 場面設定会話

004B : イー イー イー イー、コンナノヤ、アイズダ。
いい いい いい いい、こんなのさ、あれだ。

005A : モーシワゲネーネー。 (B シーシー) ナニガデ ホンデネー、
申し訳ないね。 (B うんうん) 何かで それじゃあね、

(B カイデデモ イーガラ。 シー、シー) アイスツカラ、

(B 壊れてても いいから。 うん、うん) あれするから、

カエスツカラッシャ。

返すからさ。

006B : アイ、イーガラ、イーガラ、イーガラ。ホイズ、ドーセー
はい、いいから、いいから、いいから。これ、 どうせ

アダラスーモノド カエネゲネード オモッテヤドギダガラ
新しいのと 替えなきやいけないと 思ってたところだから

(A アー ソースカ) インダー、ホイズ。

(A ああ そうですか) いいんだ、それ。

007A : モーシワゲナイ。

申し訳ない。

008B : イーガラ、キニスツコドネー。

いいから、気にすることない。

009A : シー ドーモ モーシワゲナイ。

うん どうも 申し訳ない。

010B : ハイハイ。

はいはい。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : アー、Bサン。ナー、サッキナ カリダ スコップヤー、
あー、Bさん。なー、さっき 借りた スコップさ、

フチャイデスマッタнда。ナンジョスッペー。
壊れてしまったんだ。 どうしよう。

002B : {舌打ち} ンーダヤ コイズヤー、コノ スコップヤ、オラエノヤー、
{舌打ち} なんだよ これさ、 この スコップさ、俺の家のさ、

オヤズー オイザヤ、[3] ツカエッテイッテ ヨゴサイダヤズヤ、
親父[から] 俺にさ、 使えっっていって よこされたやつ[を]さ、

ナンニシテ コイグ シチャグンダベ、ハー。シャマスモンダナヤ。
どうして このように 壊すんだろう、 もう。 しかたないもんだな。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBをホームセンターに誘う際のやりとり。

001A : アー、Bサン、キョーヤー、イシノマギ アンノー、スコップ
あー、Bさん、今日さ、 石巻[に] あのー、 スコップ[を]

カイサインカラ、ンダガラ、エッテ スギナノ、ミデ アンタ チニイッタノ
買いに行くから、だから、 行って 好きなの、見て あなた 気に入ったの[を]

トッテケラシエ。
取ってください。

002B : アー、オイモ ソーオモッテイダндаケトモシャー、(A ンー)
あー、俺も そう思っていたんだけどもさ、 (A うん)

オラエノヤー、コノ ムスコド ムスメド、ガガヌヤー、アノー、
俺の家のさ、 この 息子と 娘と、 妻にさ、 あのー、

アノ、スタミナタロー [4] サヤ、(A ウン) クイサイク° ベッテ
あの、すたみな太郎 にさ、(A うん) 食べに行こうって

女川町 場面設定会話

イワレデスマッタダデバ。(A オー)ンダガラ キョー チョットー
言われてしまったんだよね。(A おー)だから 今日[は] ちょっと

ダメダナ。ソノウジヌー インカラヤ。
だめだな。そのうちに 行くからさ。

003A : アー、ンデ ソーシテケライン。
あー、それじゃあ そうしてください。

004B : ハイハイ。ンダガラ キョーワ (A ワルイゲット)
はいはい。だから 今日は (A 悪いけど)

ウン、カゾグサービスダガラ、キョー。
うん、家族サービスだから、今日。

005A : ウンウン。
うんうん。

006B : ウン。
うん。

007A : ホノドギ、ツコ[°]ーノイードギ ユツテケライン。(B ハイ) イツショニ
その時、都合のいい時 言ってください。(B はい) 一緒に

インカラ。
行くから。

008B : ン マ ウン ソノウズニネ。(A ウン) ホイ イマ スク[°]
うん まあ うん そのうちにね。(A うん) それ 今 すぐ

ツカウワゲデネーガラ、ホイズワ イーガラ。
使うわけじゃないから、それは いいから。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : アー、Bサン、カラダノ チョース ナンジョナノッシャ。
あー、Bさん、体の 調子 どうなんですか。

(B シー) ビョーギシタズノ チーデヤゲットモ。

(B うん) 病気したっていうの[を] 聞いてたけども。

002B : ンダネヤ。
そうなんだよね。

003A : シー。ドゴ、(B ウン) ドコラ ナンジョニ ワルガッタノッシャ。
うん。どこ、(B うん) どの辺[が] どのように 悪かったんですか。

004B : シー。ダドオモッテヤンダケトモ、
うん。だと思っていたんだけども、

005A : ウン。
うん。

006B : オー、アノ シェンシェノ、イヤ、イー シェンシェーデヤー。
おー、あの 先生の、 いや、いい 先生でさ。

ナニ スッカリ ミデモラッタツケヤー、(A シー)
なに すっかり 診てもらったらさ、 (A うん)

ドゴモー、ワルードゴ ネードガッテ、コンド イワエデサー、
どこもー、悪いところ[が] ないとかって、今度[は] 言われてさ、

(A シー) シタドゴロ、 ビョーインモヤ、ナニモ スルゴド

(A んー) そうしたところ、病院もさ、 何にも すること[が]

ネクテヤー、サゲモ タバゴモ、モー ノマエネデヤ、マッタ
無くてさ、 酒も たばこも、もう 飲めないでさ、また

女川町 場面設定会話

アンベ ワルグナットー、コナドゴニ イデダラ。ンダガラ モースコスデ
具合 悪くなるぞ、 こんなところに いたら。 だから もう少しで

オイ タイインスッカラヤ。

俺 退院するからさ。

007A : アー、ソースカ。
ああ、そうですか。

008B : ウン、イガラ。 アド、アド、ミマイサ コネタッテ イーガラ。
うん、いいから。あと、あと、見舞いに 来なくたって いいから。

009A : ハエグ、(B ウン) タイインシテキテケラインネ。
早く、(B うん) 退院してきてくださいね。

010B : ハイハイ、ドーモドーモ。ホントニネ、トーグマデヤ、
はいはい、どうもどうも。本当にね、 遠くまでさ、

ミマイニ キテモラッテヤ。

見舞いに 来てもらってさ。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : Bサン、カラダノ チョーシ ナンジョナノッシヤ。
Bさん、体の 調子[は] どうなんですか。

アレガラ タイインシテキタ (B ウン) ツツゲットモ。
あれから 退院してきた (B うーん) っていうけど。

002B : ダガラネー、(A ウン) イードモッテサー、
だからね、(A うん) いいと思っさ、

ナツタケ マダスコスヤ、グエワルグ
なつたら また少しさ、 具合が悪く

ナツテキテスマツテネアー。 コンド
なつてきてしまつてね。 今度

003A : ナニガ、ウン、ヨーアットギ (B ン一) ュツテケライン。
なにか、うん、用があるとき[は] (B ン一) 言ってください。

オイ イツテ、アノ テズダツテケツカラ。
私[が]行って、あの 手伝つてやるから。

004B : ウーン、ンダナー。(A ウン) アツカヤ
うん、そうだなあ。(A うん) あるかな

005A : ナニカ クデゴツタラ アダ コシェデエンカラ。
何か 食べたかったら あなた 作つていくから。

006B : ウーン、クデタツテ クデグネーベシヤ。 [5] ナー一。
うーン、[何か]食べたいって[言つたつて] 食べたくないしさ。 なー。

007A : ア、ホンノヤ チョツピリデモ イーガラ、コシェデエンカラ、
あ、ほんのさ 少しでも いいから、作つていくから、

アニカ° シェ。
食べなさい。

008B : ンダネ。(A ウン) ウン。
そうだね。(A うん) うん。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : アー Bサン、マダ カダズゲネガッタノガー。コレア、ダイジナ
ああ Bさん、また 片付け[て]なかつたのか。これ、 大事な

シャシンダノ オイデヤー (B ウーン) ホゴサ。
写真なんか 置いてさ (B うーん) そこに。

女川町 場面設定会話

002B : ンダヨネアー。(A ウン) カダツゲルッテ キモズカ°
そうだよね。(A うん) 片付けるって 気持ちが

ッタンダケドモナー。 ンー ダガラ
あったんだけどもさー。 んー だから

003A : ンダガラ、ユワイン。 ナニ ア (B ンー ダガラ) ドイズ、ユ イ
だから、 言いなさい。なに × (B うーん だから) どれ[が]、× ×

{咳} ダイズデ、ドイズ ダイズデネーダガ。(B ウン) ウン、
{咳} 大事で、 どれ[が]大事でないのか。(B うん) うん、

ソイズニヨッテ カダズゲッカラ。
それによって 片付けるから。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを
制止してどのようにいうか。

001A : コノ シャシンヤ、ナケ° デモイーノガ。
この 写真さ、 捨ててもいいのか。

002B : ンーダヤ、コイズワヤ、オイ オイードヤ、ガガーノ シンコンリョコーノドギノ
なんだよ、これはよ、 ×× 俺とき、 妻の 新婚旅行のときの

シャスンダド、オメー。
写真だぞ、 お前。

003A : アー ソーカ。
ああ そうか。

004B : ンーダ、ホイナノ ナケ° ルナンテ (A ウン) コナ ブジョホナゴド
なんだ、そんなの[を]捨てるなんて (A うーん) こんな 失礼なこと

アンマエ。 ナンダイ、ダメダド、ホンデ。
ないだろう。 なんだい、だめだぞ、それじゃあ。

女川町 場面設定会話

005A : ンー、ワルイゴド ユッタナー。
うん、悪いこと 言ったねえ。

006B : ウーン、ンダヨー。 ナンーダイ
うん、 そうだよ。 なんだい

007A : カンベンシテケラシエ。
勘弁してください。

008B : ハイ ハイ (A ウン) ハイ。 ウン、フンデワ、ワガレバインダ、
はい はい (A うん) はい。 うん、それでは、分かればいいんだ、

(A ウン) ウン。

(A うん) うん。

宮城県牡鹿郡女川町会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 この場面は調査不備により、収録できなかった。

〔2〕 ツク

この地域の周辺ではアウ (au) > ウー (u:) の変化が認められるため、ツカウ (tsukau) > ツクー (tsuku:) となり、その長音が短くなってツク (tsuku) となっている。また、文脈からも「つく」よりも、「使う」の方が適当だと考えられる。

〔3〕 オイザヤ

オイザヤのザは助詞サ(もしくはチャ)だと思われるが、ここでのみ有声化した「ザ」と聞こえている。オイは「俺」、ヤは間投助詞とみて、「俺にさ」と訳した。

〔4〕 スタミナタロー

外食チェーンストアの名称。

〔5〕 クデグネーベシヤ

「ベ」があるが単純に「だろう」とは訳しにくい。

宮城県牡鹿郡女川町会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2 年）
冷 吟（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）

文字化担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2 年）
冷 吟（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）